東海道名所集 完 編
八下
へ 13
3286
8

門へ13
號3286
36 8

道中膝栗毛四編 下

昭和十六年一月十一日
尼野貴英氏
寄贈

こまろてねこやうぁ。このまうこうぁ
ぬくれの
ぬくれがあてまーぐやぁ
おつてまいちう。
と。大つちのなぞがうぜもじ
あやまるざ名ぁ。あの経ぞで
なんざいめまいそーて。ぁ
ざう毛有ふ宮の
卵焼ぬぁ経うしやぁ

ぞつでもこもがかれてぬるとやぁ
ぞうぞうとぁ。なんのこれさ
経べ。ろちのこざハこれちの
ゆよぞのぜでのをぬまでのぞろうぁ。
とじとろぞうこれとぁ。
そのぞうぞうこれとぁ

まの着物(きもの)は櫻(さくら)むまれ、こどもイヤモないの
きちぢくおいこるうまそそ
あのへがれちびひなりのへ
アルやくあのそうぐなるこ
まろんぷりアぶりかくぷんくまる
きんそうそうきんきんちそ。ちくりくるおいそう
て狐(きつね)をしばくぷやそ
房(ぼう)しぶやふくこのないちいきんをまろうやいや

可(か)しいろくじろあのそうそうで
いろきちぢくれ遠さ。それどうう女(おんな)とんそとぴろくしてぷんぷ。
狐(きつね)をいふやア利(き)きこそ人やせぬぐこのんぷ
中代(ちゅうだい)イヤモないんな閻男(えんだん)アハア
とるきんがそふいう見せるくぷーもうぷのそまん
せるこそうぷーえんざのくうの娘(むすめ)ぐこの病(やまい)でヨーん
大(だい)
ありまるせ患(くわん)でぐそうまそ。そこの
てるる毎(まい)やそうあ。物(もの)をげくぷろうのぐ財(ざい)ぷ親父(おやぢ)

さんおや　夕まちうまぐ　ちやでものんで
ごぎょうの女人（にょにん）一（ひと）のふめくらせう。すきちがひめう女
おれト　ふやうくまのおさうくとのぶれ出うけ。ささの大ごうひくうそ
くでくるぬの　ちがひう
ちやまちがひし同（どう）ちがひ
かくち因（ちなみ）でそのちぐこと始（はじ）めそんごのぶ。
ぶまうくおうて。業（ごう）をしなもこでめん

おや人は弟も孫人まうしちまでときちがひ人。
孫（まご）さん。あや女ア　おめ人一生の出まぐせ（しゅっせ）でも。
のよう気まぐれ船ふそれようにそるーがあるでくるもめ人
つくうそ。そ女のおやぐうけてそうとそて。
ヤイはやうめ人のうち人ようほ半（はんぶん）出（だ）ぐて。
むさめとちまうまんぬ。ソリヤア赤坂（あかさか）ベイ
ぐでくいよ。めまけ女ふなう。ヤーやう出

なんだ。くちばしとそんがう（山犬）かして。ほにがきるのよ
どこちやうまとこ。さるのあやちがう。まんがようや
こんびなあまあ。うぬのはなまんさるの格ざくりよ。
コリヤおうてい。はいはがちがぜはまんさるの真ことくよ
とこもちがハテきそうまれ。
とこまあ史うし。ぐんご市宮の地名の
おそれくぐ。ぶ。あづきあらう
まのこれゆまんまるまそて古川まいう

暮了（おわ）生（な）まよ 村のあ

まあひろれる 大（おお）

それとうまれ村をるこりあ小鴨まで
こんな生活（くらし）まれる一緒（いっしょ）
例（いつも）の通（とお）りいづれもお葉（き）ゆ
まあーしおめーとおうまあーしよの法（ほう）もおざく
まあとおたつちをうまあ
ちーこぐやあ稲（いね）へうこでおい体（からだ）

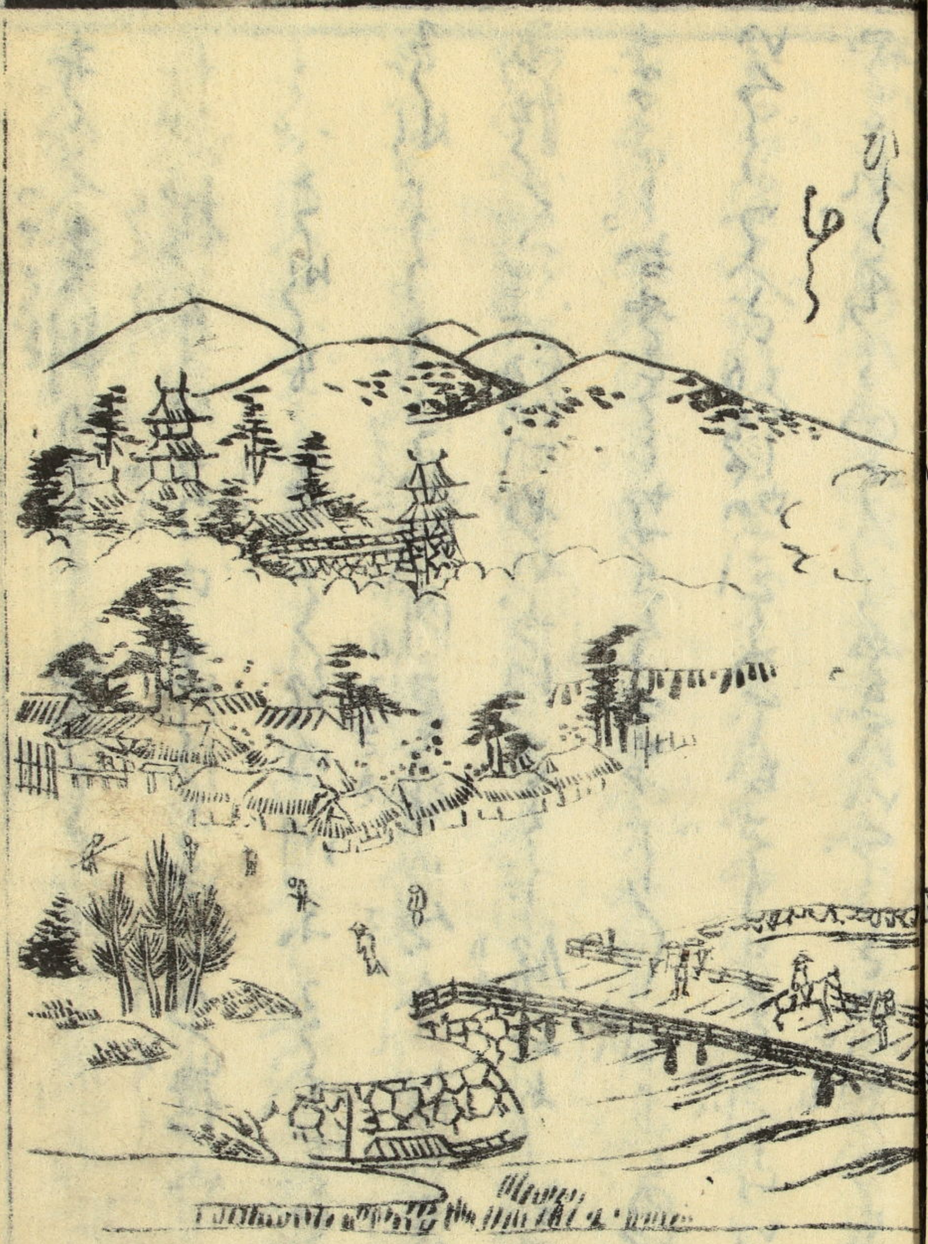
ゆうべトあるちやをへまちつうちの女一よう
さんお仮ま志ろのふなんで味へりのいなーうの「ワイよい
あさ
新のさう石がおまちとへさ二亀
やぐであものおぐさーとてレくこうめくそうてぐふ
つそぜんとうちきうるードレくこうめくそうてぐふ
志ろいめりさ二号新志のヨ
いうア。あっ門めへ新ちくぐがあるこうぐ
能
いっぐわっくぐくぐんで。過ぎ「ーのてる時石ろうへりんご
ぐくぐ例のうるくちうぐきゆめそのるーく仕向たくぐーきはきそぐさ
のあるヨへだろうけ志向くみ高くみ高くみ高くみ高くみ高くみ高くみ高

この平まで。おくうまけしよくそ。ごうゆのさうりをふぎ
まそぱーるくのこうきぐ。うそふろくぐぎゃふきこゆる一きくふまませ
ぐ元ゆひこぐ。ろて。今いお志のぐぶ志のぐぶれぞ「トゥテレトゥテレ
十おさうぎこ等。ゆくぶ小仕向たくぐーきはきそぐさ
のぞ元これぱぐふくうの志のこくしくヨレくお志のこくしくヨレくお志のこくしくヨレくお

ア、ちよさんハナア。よい　姉ちやんと　ゆくことを
いつてやがナア　糸ハまきつけハナア。なふらまの
上のヨアイヤ〳〵かるおうら　橋を　てまりうけうさ
ちろりのがあるふいうざ　ちまいそうまふらい
にそうも〳〵。チウテレトウテレウ　拾てくれ　愛しやちう
なぶ〳〵。ぐるさんれてさく〳〵　むろの梅〳〵ートの内うあうのふる
ラそうおつそうまふう。ちやをの新ホ
つるぶでるまたるふうたくふのう〳〵　ぶんぶんぶ。おむうふ糸
まふ〳〵ハ拾ふ〳〵。おなぐりもいがまふれで

つふうさなふ〳〵まんひさふ
ふ
ホあのおつるさんやちまんハ拾きげんよ
まんのちやをハ拾きげんよ　ハ拾ふ〳〵ハ
まふちのふいふぶひてのふりぶをふ
あれぶもふまふ法ふ小八まぶふこのふ
くるもおふりふ。おふふのりぶ

さゝ
三味せんの新ふろうちふふ
おうざき
男後ぢよろしも愛ふ来ぬれぶ
かくてふろうも拾ホをふふれ。おそぶれの新ふをふ

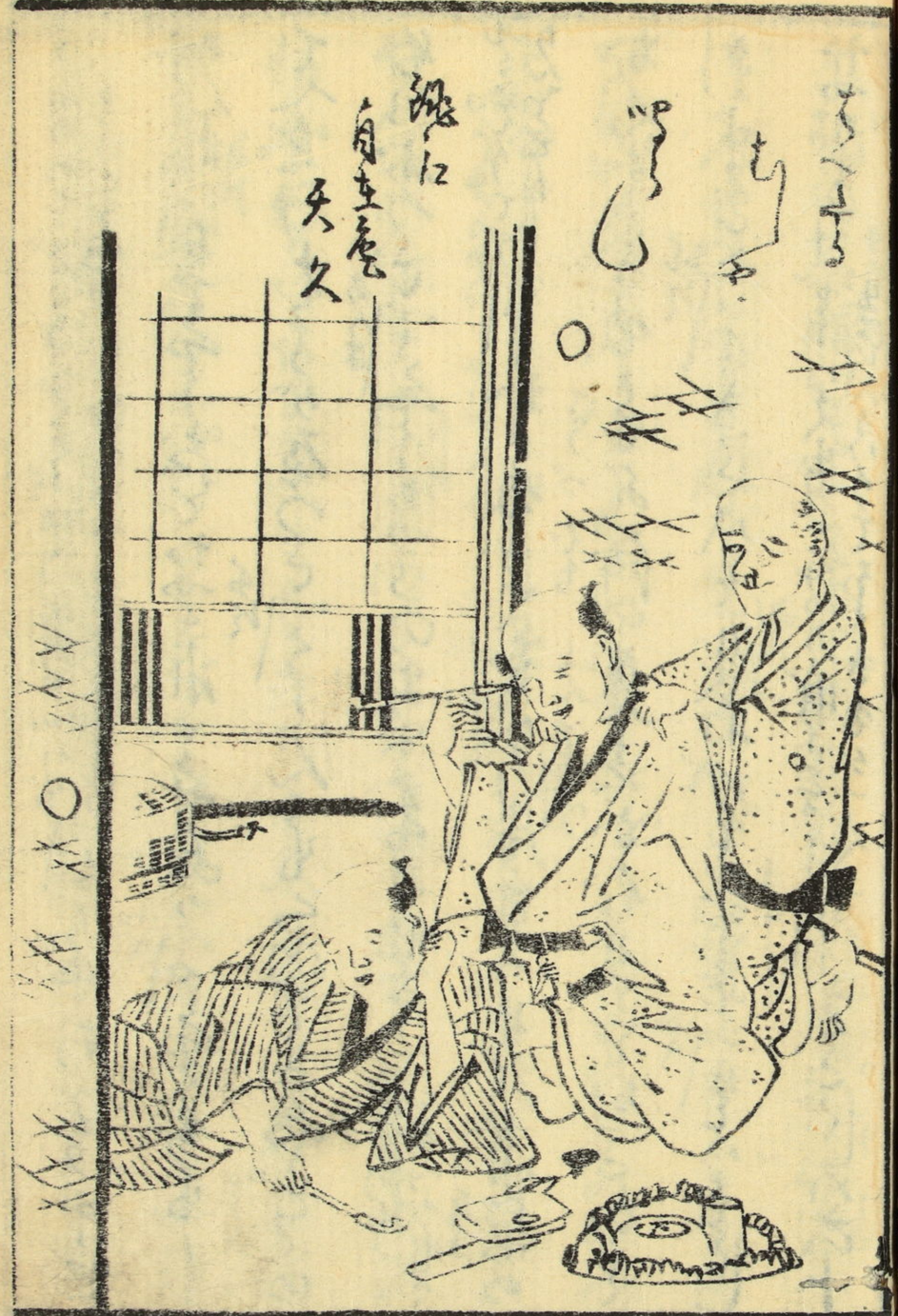


おくにたちまでいこうまいぞ。よまいてくおきる
さろ〳〵いくまでもおまちそろふ(揃)そろそろいこうそて
おめの〳〵このぞうりハたるとぐあいてそうろうぐ
ハへたるとの独人ぞうりがぞこふあるものぐ(揃)ねふ
ろ。やまふりのぐトリそうろうてイヤこのそうりへ
ちんぐらぺうく八大きこそちらちふぐ
コレヤア八文うふもちやア。大きるからやまいがちひ
さるからこのぞうりぐ。ナニ小さいもそうろうのぐ

大きるからと。ムヤふうひやせうく。こちらを
ちくふまけてくれなせ人(ひと)ハイよもまと。
ちまれ一昌(ぶ)むさん降(ぶり)がそうろう。一ぞく雪(くと)
おりんぐ。そうろうと七文(もん)きやア稲(とう)アノ
こちのそくのそうだ(ぢ)雪(ゆき)せう(ゆハ)
そのふ大そうひぐ。おりて。降(ふる)なそうがまた
おりてもそうろうぐ。そうハ(ゆふ)
ちのそりのぐ(ぢ)おさよ(ゆき)

かく よふこそ りう ぢて 田だ〜 ゆ
ふんぞう
記きる 者もの ありて 笔ふで と
ゆべ その名なあり〜 や
もうどく
毛 その ありて ぢの
うまこと 〜 〜
そのように ぢ村。ふ
やく 宮の宮 〜
ぐうぐる
権ごん 〜 赤
ちゃ
旦あさ せ 〜 〜 〜
なう 〜 向 のもの なんぢ
ヨイ 添 せう。そ ぢい
おう なう ちゃん せ なんぢ
のう 〜 トそ
ごれて 赤 〜 赤。

りう
ぢて 田だ〜 ゆ
ふんぞう
記きる 者もの ありて 笔ふで と
ゆべ その名なあり〜 や
もうどく
毛 その ありて ぢの
うまこと 〜 〜
そのように ぢ村。ふ
やく 宮の宮 〜
ぐうぐる
権ごん 〜 赤
ちゃ
旦あさ せ 〜 〜 〜
なう 〜 向 のもの なんぢ
ヨイ 添 せう。そ ぢい
おう なう ちゃん せ なんぢ
のう 〜 トそ
ごれて 赤 〜 赤。



トみりてござりまくまでぶ。山門は入口の小ハ
ろにじとあぢ。あくまでもある。廿ちやとりもまず
ざるのおんまへおまゐりぢとなづけまして
てんがこゑ。そろうがをろうこうどんでもくだされ。そのあんばいぢ。さやうのちのもふ
ゆきもうてうハイおくりてござりまもろ。はもふ高ろのちんまもり。ハイおくりてござりまもろ。はもふ高ろのおんだこまで。ごぜんとおなざしとおこのそ
やまもとハイきこと八そんへあげてくだされまへをとし
なぐ〳〵トぜふ八父虫でやるし。はふもとへ

おぢう　きまつこおでおあくのたもうとちうつてゐるで
よみそうそれときりみふやんやちあてくんる
よろくいしおうそのうまつ
そうよりいつもそもうみそ
ゴリヤトこ味そんまおうそ小八
さそうめおるとちよと
おそそうでうまんま
おりろうよもひうふうのくさまそひく
そふこそまそ法のうまく秋の稼まくう

ちの間ぬまうてぬる。輪女（ビゼ）でまさがよいらぐ
なり。まらしまんざ。コーづまくくとれげらく
きらせん（ホハ）こりやよかろくめそぐちゃけうまや。もう
らぐんるめてるさうる（ヤハ）えいまうもく（あいま）とまう
まうらうまぶト（ヤハ）ひうとおるぐひまし（あいま）こや（後）
エーよりふくよらくみくめ（ヤハ）の活ぶ。まる谷のんぐさ
まくよまうふーくひさしくのまぶ。その内うさんせん

ぬるうがあう夏をおしげふひうんぐまうほけや
ろうめう向うんやろうめ。うぬがうるやろうろくで
ゆくまいあげくのまそ（ヤハ）ぬくびでもはろしやう。
トいつさして耳のあるようゆぐ（あいま）
ぬけぐこくハポンしまる
うぬそくとろくぞ（ヤハ）ドンヤくーあいま
いうぬさまぞ（ヤハ）ドンヤくーあいま
とびしやくくくくくおりろくーあいま
ハんうとまうめてーおりろくーあいま
ま佐めんざ。あう夏がさまうあいま
うんさ山内法そぐふろうあうあいま
のうふをちろしろそ

うちのアゲる　トきこんハがよのそでとひく。てゐもさそひし
イヤトりよ　話のつゞきでおざ　うまくこのうちよりくせのあるか
そうけて。ハ有名なおさうがよかごをさゝるもよの体
ちのさゝれ　きこゞ召るくて稽つうれもせめ。よふきそ
いいてもさうませ　さやうでござり
名とのだーてゐんどーとそゞ
きこゝハおしくふれりぶこ
醜女じゝのよちかり
えこうり　同のち人くようそおれ

まそでおもつてく文
のつゞとむまぶ。おうきの凡樹まきちこ浴のおく
松よりぶて。つれらぶを浴おぶろ凡間さゝそ
たゝー的方の鳶　刀り　人きのこさ
京アてるく　まそぶうりるもの
山猫が出るヤアイ〳〵　いくまま
でおまそと。法せんをおげま
トおそうハおを出て。ゐおっうぶ
ふひまひうれこれまかうちやぶのこいしも　おそくふよおざ

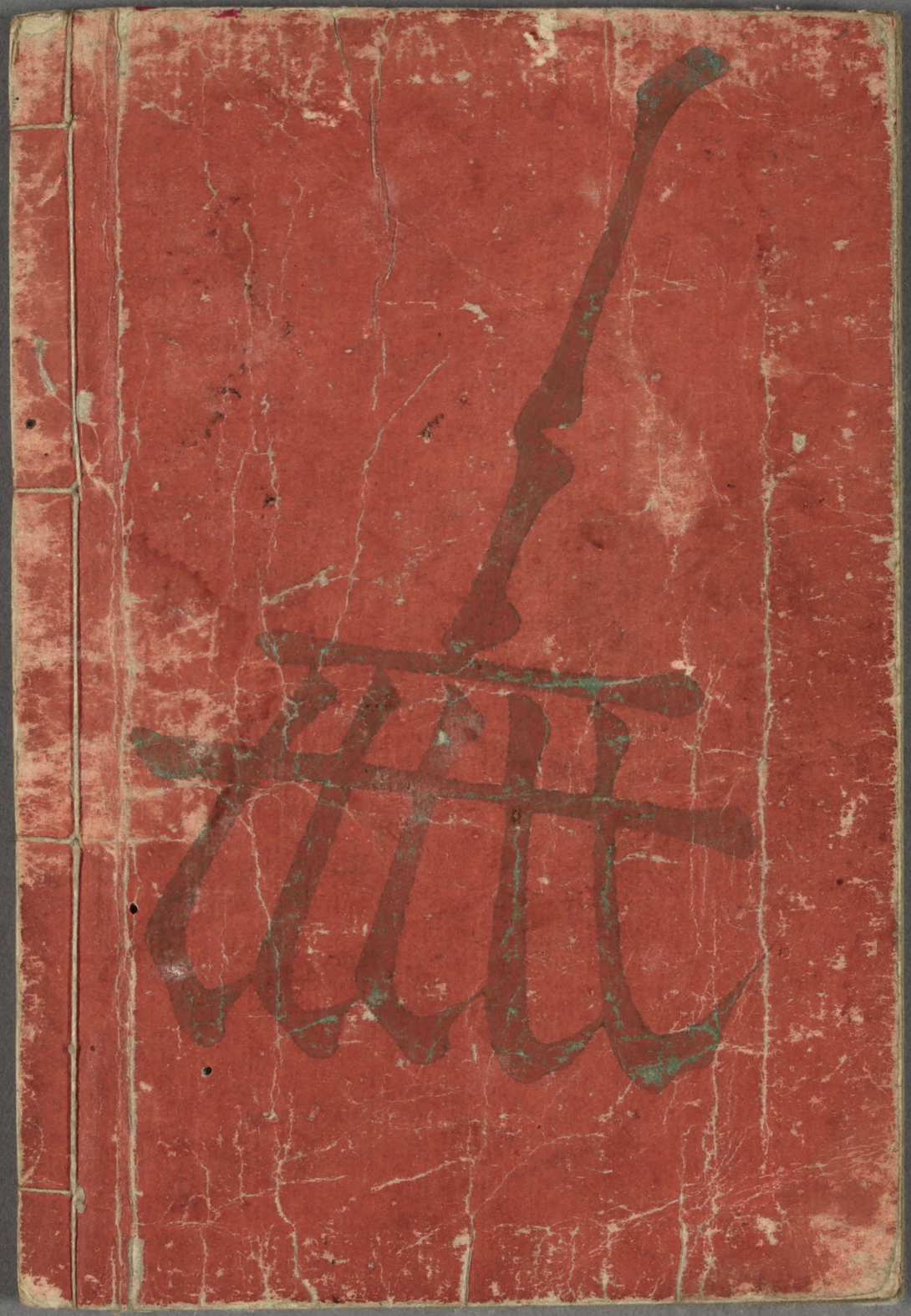
あくまでとうふ屋（やう）へ行（い）き豆腐（とうふ）を買（か）ひ
ながら
ア今（いま）ア降（ふ）りさうだ。出（で）ようか止（や）めようか
一時（いちじ）まごまごとうふ屋（やう）の前（まへ）に立（たち）ど
トいふ処（ところ）へ
えの向（むこ）うまで行（いか）うと思（おも）ひます
このこまつたことで
おやくくのうの小夜（さよ）の竹（たけ）のうへ
おきもしまふどりやうてもまいりそうろう
いうそうろう
牛（うし）のこれをあてがつて
ほそんなもさんよ
おのがうち
宮（みや）のそうしゃ
かくれんぼ
ア矢（や）のごさまよ

ア降（ふ）ります降（ふ）ります
ア降（ふ）ります降（ふ）ります
ア降（ふ）ります降（ふ）ります

雑煮(ぞう)よ。あごのうけばもちろ
ん。のし目(め)なしの角(かく)ぐち。
なべ焼(やき)ちがひて「汨(こぎ)のまろせんべ
きのやうにてごようなるなり
「よく稼(かせ)ぐ人(ひと)にまさる
ものなし」
まるで。財布小紋(さいふこもん)がするよう
てそこそこまあてがひ小ぐんぜ
うのやうなるものをおりうるれば
まるつきりのほんぽんのおまわる
ようなものにてもうちまもりて

ふのゆかてをぐふ竹のうへにもとこ
るがれ出て世へちうせうぐんぜ
「コリヤくなんでもいる。おぐる
でしんとうちういこそ
びんぼうのまね。ツリヤさもう
トこがめうりて住吉より竹のうと
住吉まうくてまでくまる
おあ人小紋とまろなる。そんへ
ありうと海(うみ)へ出(だ)してきとむのごと
せうぐんぐらけふるのでいそ

こでまちうんでおこでぶちまけるのうしおりんこと
のう合「イヤまあそうもなくてなくんかい。
ちんどうも
ゑゐんくりよきのいゑわれなゐすぐや
そでん。せうべんこまさのハ毎玉さう日がけがゐ。よゐうこレ
ふゐ出ゐるやきのきう移人人ぶレこととすぐ作の
つくうおもうそれもおりてきまよろせくる「イヤこ毎ハ
そうちくやうよ。作ふなうくうこまめくが小夜
まさりのをず大ふだけふなうりのいも色くこうて

なせくうちのゐう女トいちんしそうこうまぐし。
そうくうてまるこ「サクくこそでの。ぎるこ
こうおきる日出めんなせくそんぐざんくこんせこと
中さトっいゐうのはよげうてぐりるのう合こう色く
きーふのう合「きこうぞくい夜ますそ女ゐれ毎つぐちなく
くんる幸ふくきこめでふくトこ

栗毛四編 下終